狭義の「学徒出陣」にいたるまで

1939年3月9日 法律第1号

徴集延期年齢上限の引き下げ
 大学予科：25歳 → 23歳 専門学校：25歳 → 24歳、
 大学学部(医学部以外)：27歳 → 25歳
 ※早生まれの場合はさらに1歳少なくなる

1941年10月16日 勅令第924号

大学学部の在学年限／修業年限の短縮
 1941年度：3カ月短縮(12月卒業)
 1942年度～：6カ月短縮(9月卒業)

1943年5月・7月

陸海軍による高等教育機関卒業生(見込者)の大規模募集
 第13期海軍予備学生募集
 (全体：4976人、本学の応募者は最多：417人)
 陸軍特別操縦見習士官制度
 (本学志望者の合格者数は全国筆頭という報道がある)

1943年10月2日 勅令第755号

在学生の徴集延期停止 → 狭義の「学徒出陣」へ

「学徒錬成部資料」(早稲田大学本部書類(続の2))より作成

臨時徴兵検査判定結果 (1943年11月30日付)

1943年10月1日の「在学徴集延期臨時特例」による徴兵猶予の停止に伴い、臨時徴兵検査(十八臨徴)が10月25日から11月5日にかけて全国で実施された。

満20歳に達した学生は徴兵検査を本籍地で受検した。

十八臨徴では甲種、第一乙種、第二乙種までを現役兵として徴集し、第三乙種、丙種は召集対象となった。

ただし、理工系学生については11月13日の陸軍省令第54号により、入営延期措置が引き続き適用された。

各学校・学部	在籍者(人)	甲種、第一乙種、第二乙種(人)	第三乙種、丙種(人)
大学学部	5,404	3,440	588
政治経済学部	1,179	764	137
法学部	800	558	144
文学部	711	384	3
商学部	1,427	1,050	128
理工学部	1,287	684	176
第二高等学院(文科のみ)	1,364	206	61
専門部	4,278	1,014	134
政治経済科	1,214	315	38
法律科	1,014	268	43
商科	1,203	228	18
工科	847	203	35
高等師範部	380	146	16
専門学校	1,980	549	68
合計	13,406	5,355	867

参照：「臨時徴兵検査判定結果」(「早稲田大学本部書類(続)」)6-016、『早稲田大学百年史』第4巻第8編第6章第18表)なお、第一高等学院のデータは残されていない。

注：上記は、大学が各受検者の判定結果全てを把握するのが困難だったため、正確な検査人数、検査結果が示されていない。
 検査対象に徴兵未適齢者や成種判定以外の既受検者のほか、朝鮮・台湾出身学生、留学生などは含まれなかったため、各学部の受検者数は在籍者の属性によって差が生じている。
 第三乙種は第二補充兵、丙種は第二国民兵にあてられた。ただし、全員が召集されたわけではなかった。

参考：田中温子、「学徒出陣」の入隊者数 徴兵関係書類分析を中心に、慶應義塾福沢研究センター『近代日本研究』、2020、第37号

学部・学校別入営者数

(1944年3月4日付)

学部・学校	入営者数(人)
大学学部	3,209
政治経済学部	895
法学部	705
文学部	421
商学部	1,175
理工学部	13
高等学院	517
第一高等学院文科	247
第一高等学院理科	5
第二高等学院(文科のみ)	265
専門部	1,024
政治経済科	357
法律科	348
商科	309
工科	10
高等師範部	174
専門学校	783
合計	5,707

出典：「教育二関スル戦時非常措置方策関係書類」(三号館旧蔵資料59-32)